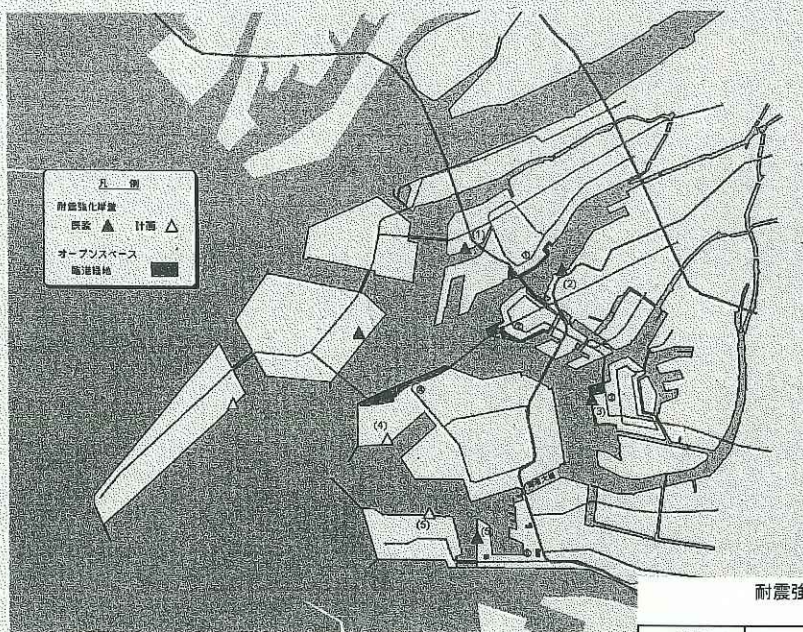


防災緑地位置図

港湾緑地の整備計画図
(耐震強化岸壁に対応したオープンスペース)



耐震強化岸壁に対応したオープンスペース

耐震強化岸壁の緊急物資等の一時保管、荷捌き等として利用可能なオープンスペースを確保する。

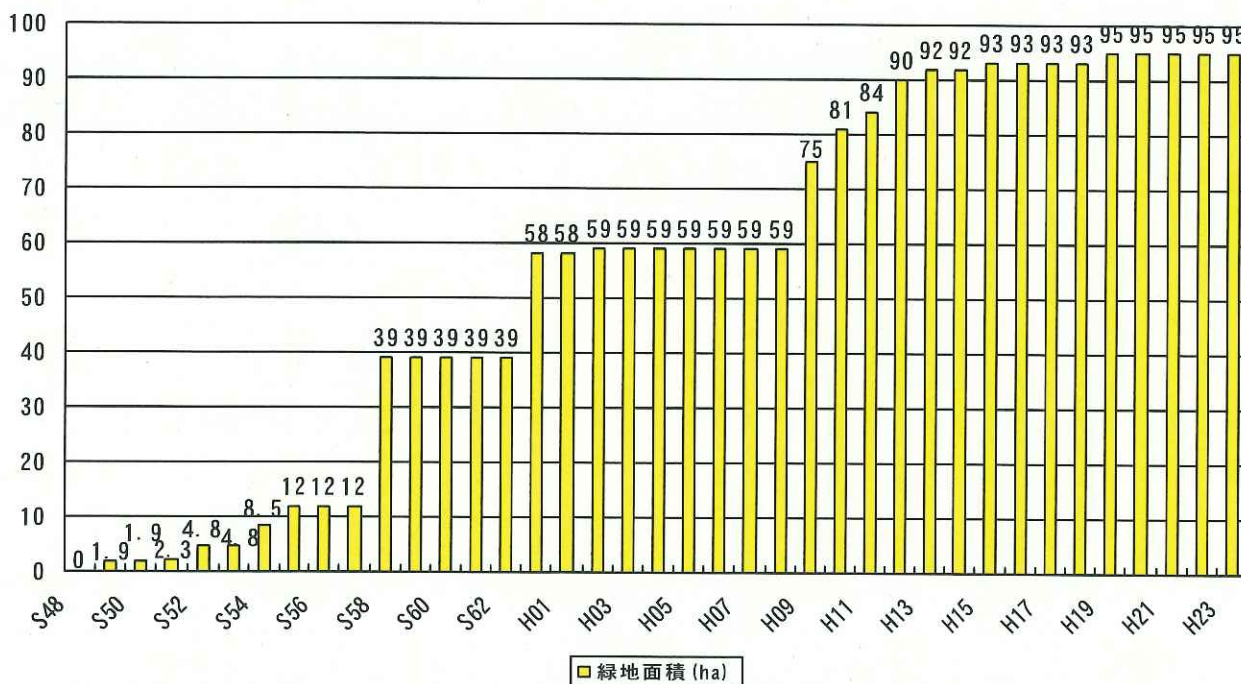
地区	名称	対応する耐震強化岸壁
此花地区	①此花西部臨港緑地	(1)北港岸壁
港 地区	②築港緑地	(2)安治川第1号岸壁
大正地区	③鶴浜緑地	(3)鶴浜岸壁
南港地区	④南港北緑地	(4)R1・2岸壁
	⑤フェリー前臨港緑地等	(5)A、F7岸壁

整備面積の推移

・港湾緑地の整備については、平成23年4月末現在で約95ha（計画面積 約136ha）であり、昭和58年に開園した大阪南港野鳥園や昭和63年の北港ヨットハーバーの供用等、昭和48年の港湾法の一部改正以降、整備面積は増加している。また、港湾計画の緑地面積も増加している。

(平成22年度に国庫補助事業から社会資本整備総合交付金へ移行)

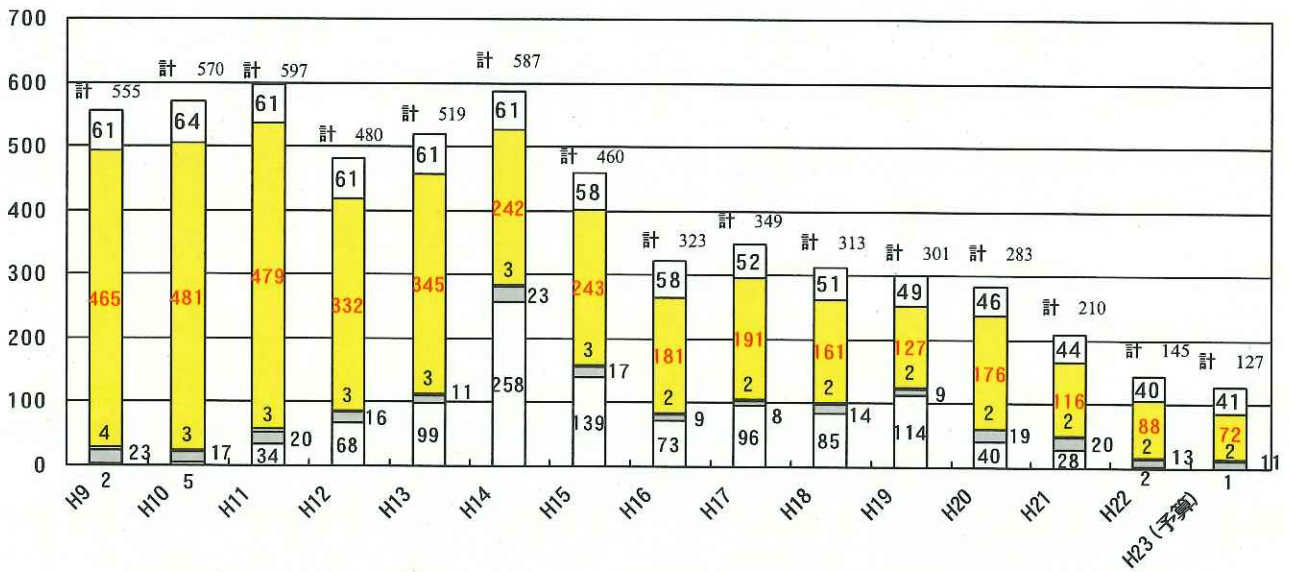
港湾環境整備事業（補助）緑地の整備面積 表



事業費の推移

・市の財政状況が厳しくなり、港湾局の一般会計について、事業費の縮減傾向が続いている。

港湾局決算の推移 (億円)



□ 港湾環境整備事業 □ 港湾地帯防災事業 □ 大阪港振興事業 □ 大阪港修築事業 □ 経常経費

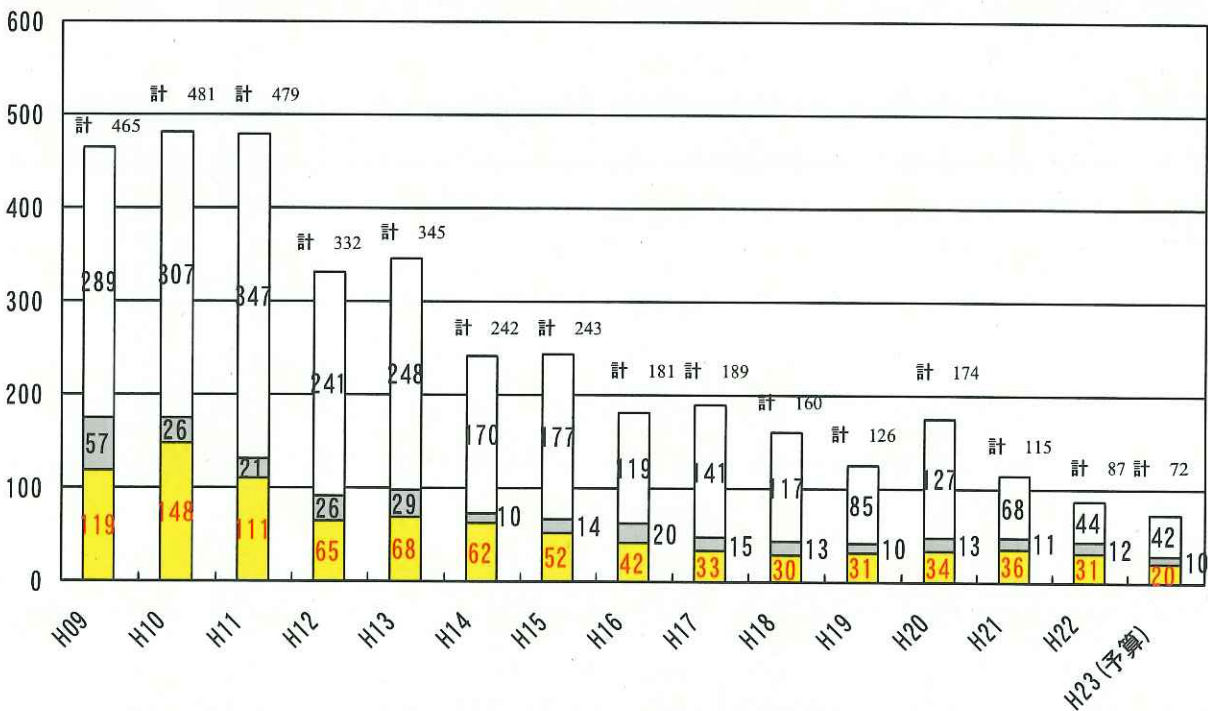
※港湾環境整備事業 : 新人工島土地造成等
 ※大阪港振興事業 : 大阪港の宣伝普及等
 ※経常経費 : 維持管理経費

※港湾地帯防災事業 : 海岸施設の建設・改良等
 ※大阪港修築事業 : 港湾施設の建設・改良等

事業費の推移

・大阪港修築事業決算の中で、本事業の対象地区（在来・その他）の事業費の推移についても、縮減傾向となっている。

大阪港修築事業決算の推移 (億円)



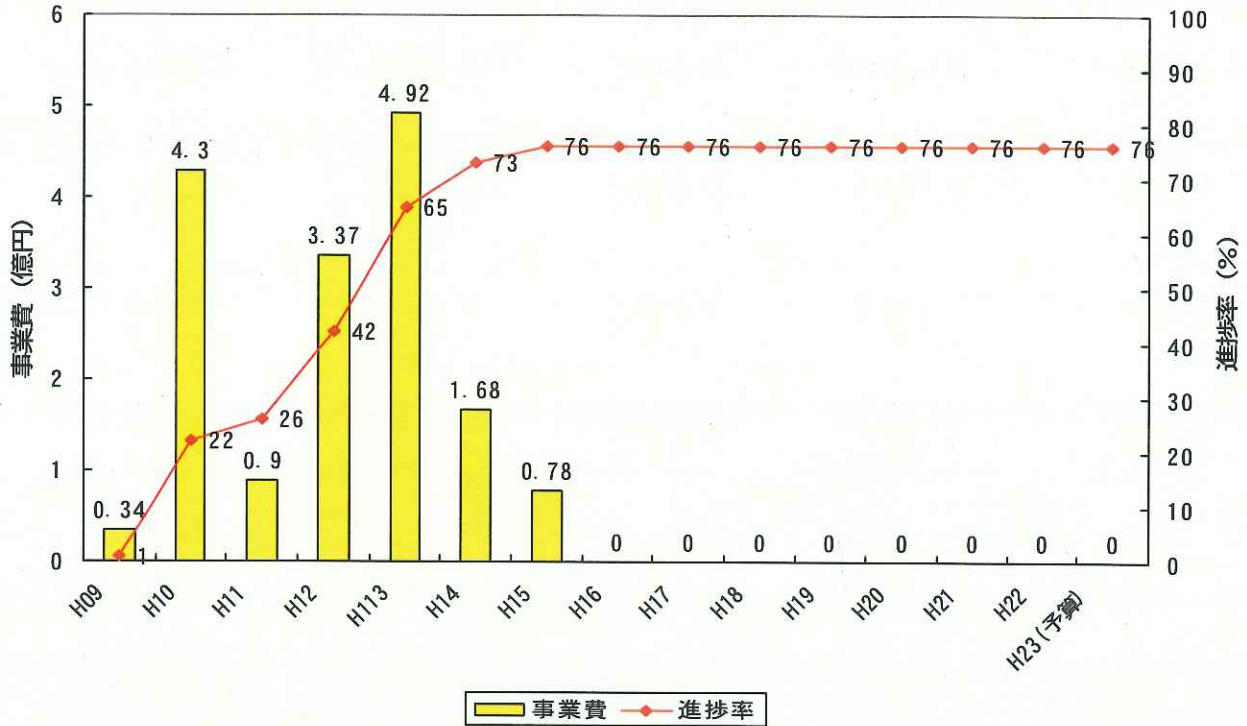
□ 在来・その他 □ 咲洲 □ 夢洲・舞洲

緑地の事業費と進捗率の推移

・此花西部臨港緑地

本緑地は、平成9年度より事業着手し、平成13年度から一部供用（約1.9ha）を行っている。大阪府の堤防事業と併せた事業進捗が必要であり、平成16年度より本緑地の事業を一時休止している。

（進捗率は事業費ベース）



10

局運営方針に照らした事業の位置づけ

・平成23年度港湾局運営方針において、重点的に取り組む主な戦略として、

- ①国際コンテナ戦略港湾の実現
- ②ハード整備・ソフト対策が充実した防災・減災体制の確立（防潮堤の耐震補強、橋梁の耐震化、大阪港地震・津波アクションプラン）
- ③施設の適切な維持管理の充実
- ④企業誘致と都市基盤の充実
- ⑤国内外からの観光客を呼び込む施策の強化

上記の5つとしており、本事業の重点化の位置付けはない。

11

今後の事業費のシミュレーション

・大阪府の試験施工においては、府の検討委員会の中で一定の評価を受けているものの、新技術及び新工法を積極的に取り入れていく必要があるとされており、実施施工を開始する目途がたっていない。

・大阪市では、再評価時に事業再開年度を平成24年度とし、事業完了予定年度を平成28年度と定めていたが、大阪府の事業計画が確定していないことから、本事業は事業再開後5ヵ年となる。

事業再開後5ヵ年計画

